

海岸漂着物環境学習プログラム(小学生中学年以上対象)  
**「海岸には何があるかな？探してみよう！」シナリオ例**

■進め方

流れ	学習の内容	指導員のはたらきかけ	準備(物)
導入 15分	●漂着物サンプルを見て、漂着ごみにはどのようなごみがあるかを知る。	<p>1) スタッフ自己紹介</p> <p>こんにちは。今日は、「海岸には何があるかな？探してみよう！」に参加してくれてありがとうございます。</p> <p>これから約2時間で、海岸に流れ着く漂着ごみについて、楽しく学んでもらいたいと思います。</p> <p>私は、このプログラムをみんなと一緒にやっていく●●です。▲▲と呼んでくださいね。よろしくお願いします。</p> <p>2) 漂着物サンプルの紹介</p> <p>今から海岸に流れ着いたものを紹介します。ここにあるものは、すべて愛知県の海岸で拾ったものです。</p> <p>(貝や流木などの自然に還る漂着物のサンプルをいくつか見せながら)これは何でしょう？</p> <p>貝ですね／木ですね。これら自然のものは長い時間かけて分解されて、土や栄養になったり、自然の中にかえていくものです。</p> <p>では、(漂着ごみのサンプルをいくつか見せながら)これは何でしょう？</p> <p>お菓子のふくろですね／台所にある洗剤ですね／漁師さんが使う浮きですね。このような人工的に作られたものの多くは、長い時間かけても分解されないため、海をずっとただようごみなんです。</p> <p>では、これらは、一体どこから流れてきたものでしょう？</p> <p>今日は、漂着ごみがどこから流れてきたものかを考えながら、海岸の状況を見てください。</p> <p>3) プログラム概要(グループ活動)説明</p> <p>これから実際に、海岸にどんな漂着ごみがあるか確かめに行きますが、海岸に行く前に、これから行うグループ活動について説明します。</p> <p>はじめに、海岸に行って、「ビーチコーミング」を行います。「ビーチコーミング」とは、海岸に流れ着いたものを拾い集める遊びのことです。今回は、ワークシート1を使って(ワークシート1「漂着物！？ビンゴ！」を見せながら)、ビンゴゲームをしながら、ビーチコーミング</p>	<p>■指導員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・机は、グループごとの島にレイアウトしておく。</li> </ul> <p>■指導員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漂着物サンプル一式</li> </ul> <p>■指導員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート1「漂着物！？ビンゴ！」 1枚／グループ</li> <li>・ビニール袋2つ／グループ</li> <li>・クリップボード 1つ／グループ</li> </ul>

	<p>を行います。</p> <p>ビンゴゲームの真ん中にあるスペシャルは、グループの中で見つけた「とっておきのもの」で、何でも構いません。ビンゴで発見したものは、ビンゴゲーム用の●色の袋に入れてください。</p> <p>ビンゴゲームをしながら、ビンゴゲームに書いていないものも拾ってください。ビンゴゲーム以外のものは、この●色の袋に入れてください。</p> <p>拾ったごみはどこから来たのか、誰が捨てたものなのかを想像しながら、漂着物を拾ってください。</p> <p>また、海岸に落ちているものが、「ごみ」なのかどうか考えながら拾ってください。</p> <p>グループの中で、ビンゴゲームの紙を持つ人、袋を持つ人、ごみを拾う人に分かれてもらいます。</p> <p>後で、どんなごみが落ちていたかを各グループから発表してもらいますので、発表者も決めておいてください。</p> <p>ビーチコーミングの時間は 30 分です。ホイッスルが鳴ったら、終了の合図ですので、集まってください。</p> <p>皆さんが集まったら、拾ったごみを見せ合ったり、発表してもらいます。</p> <p>その後、部屋に戻ってから、ワークシートを使い、漂着ごみ問題について、グループで話し合っておいてもらいます。</p> <p>グループの確認をします。</p> <p>（※欠席者があった場合など、グループの人数がなるべく同じになるように、調整する。その際、指導員一人につき 10 人以下になるようにグループの数を調整する。）</p> <p>では、海岸に行く前に、皆さんに必ず守って欲しいことがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 軍手（やごみばさみ）を使用する</li> <li><input type="checkbox"/> 濡れても良い運動靴（や長靴）をはく</li> <li><input type="checkbox"/> 何が入っているかわからない容器は開けない</li> <li><input type="checkbox"/> 波の様子や潮の満ち引きを確認する</li> <li><input type="checkbox"/> 足元に気をつける</li> <li><input type="checkbox"/> 日差しを避け、水分補給する</li> </ul> <p>では、移動するので、持って行くものを確認します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみばさみ</li> <li>・ハンドシャベル</li> <li>■参加者</li> <li>・軍手</li> </ul>
--	--	---

		<input type="checkbox"/> ワークシート1をグループで1つ <input type="checkbox"/> ビンゴ用のごみ袋を1枚 <input type="checkbox"/> ビンゴゲーム以外のごみ袋を1枚 <input type="checkbox"/> 軍手(全員) <input type="checkbox"/> ごみ拾いをする人は、ごみばさみやハンドシャベル 足りない持ちものは、ないですか。では、出発します。	<b>■指導員</b> ・各グループに、ワークシート、ビニール袋、ごみばさみ、ハンドシャベル、クリップボードを提供する。
<b>移動</b>		・海岸への移動を先導する。	
<b>展開1 (屋外) 30分</b>	<b>●漂着ごみの現状を知る。</b> <b>●ビーチコーミングを通して、海と森や川のつながりに気づく。</b>	<b>1) 海岸活動</b> ビーチコーミングの時間は30分間です。ホイッスルが鳴ったら、ここに集まってください。 ビーチコーミングは●●から●●の範囲で行ってください。遠くには行かないようにしましょう。 ※10分前、5分前に、残り時間を伝える。 ※終了前までにレジャーシートを敷いておく。 ※指導員の声が届く範囲でビーチコーミングを行う。 ※各グループの活動状況を監視し、安全を確保する。	<b>■指導員</b> ・軍手 ・ごみばさみ ・ハンドシャベル ・カッター ・はさみ
<b>(屋外 or 屋内) 15分</b>	<b>●さまざまな漂着ごみがあることや流されてきたものが多いことを確認する。</b>	<b>2) 海岸活動(経験共有)</b> <ホイッスルを鳴らし、集合させる。> ビンゴゲームのマス目に書かれたものの順に、どんなものが見つかったか、ビンゴゲーム用の袋から出して、レジャーシートに出してください。  <レジャーシートに並べさせる> たくさん集まりましたね。では、順番にどのようなものがあったか見ていきましょう。 <b>【生きものの落としもの】</b> トリの羽、カニの殻が落ちています。いろんな生きものが海岸には棲んでいることがわかるね。なぜトリの羽が落ちているのかな？そこにカニなどエサになる生きものがいるからですね。海岸では、いろんな生きものがいて、食べたり、食べられたりする関係が成り立っているんだね。 <b>【貝がら3種類】</b> いろいろな形・色・模様の貝がらがありましたね。愛知県でたくさん採れるアサリのように、貝は、同じ種類でも、いろいろな色や模様があるんだよ。	<b>■指導員</b> ・ホイッスル ・レジャーシート

		<p><b>【生きものの足跡】</b>                  トリやカニの足跡が見られます。ヒトとイヌの散歩の足跡もありましたね。</p> <p><b>【魚つりにつかうもの】</b>                  釣り糸、ウキ、釣り針、餌箱等が落ちています。釣りをした人が出したごみですね。</p> <p><b>【飲みもの・食べものごみ】</b>                  ペットボトルやお菓子の袋がありますね。色々なものがあるけど、これらは全部海岸でばい捨てされたものかな？</p> <p><b>【おもちゃのごみ】</b>                  ボールがありますね。転がりやすいし、なくしやすいので、自分たちも使うときに注意しなければならないですね。</p> <p><b>【森から流れてきたもの】</b>                  木や木の実(クルミなど)を見つけた人もいますね。これは、森のもので、森のものが、川をつたって、海に流れ着いたんですね。</p> <p><b>【海ならではの音】</b>                  波の音、風の音、トンビの鳴き声など、海ならではの音をたくさん聞くことができます。自然の中で聞くことができる音は、気持ちがいいですね。</p> <p>では、ビンゴゲーム以外のごみで、こんなものも見つけたよと、各グループから発表してもらいます。(全グループから発表)</p> <p>海岸には、さまざまな漂着物がありましたね。「ごみではない」と思うものもあったのではないのでしょうか。例えば、貝がらや草や海藻。これら自然のものがあるところには、生きものがいませんでしたか？生きものにとっては、大切な栄養源となるものもあります。ただし、海水浴をするところでは、遊びの邪魔にもなるので、「ごみ」と見られることもあります。一方で、人工物は、生きものの栄養にもならないので、すべてがごみとなりますね。</p> <p>それでは、部屋に戻って、みんながたくさん見つけた人工物が、どこから、どうやって海岸に流れ着いたのか、考えてみましょう。</p>	
<p><b>休憩 10分</b></p>		<p>屋内への移動を先導し、休憩を取らせる。</p>	

<p><b>展開2</b> 25分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 漂着ごみは、「誰が・どこで・どのように」生み出したかを考える。</li> <li>● 漂着ごみは、生きものや経済活動にどのような影響を与えるかを考える。</li> <li>● 漂着ごみを減らす方法について考える。</li> </ul>	<p>これから3枚のワークシートをやってもらいます。はじめに、3枚のワークシートのことを説明するので、聞いてください。</p> <p>Q1では、海岸で拾ったごみが、「どこから」、「どんなもの」が、「どうやって」きたかを考えてみてください。場所は森林から川を通過して海までの間の6カ所です。グループのなかで話し合っ、シートを完成させてください。</p> <p>拾ったごみを参考にしながら考えてください。ただし、ここで袋を開けると散らかってしまいますので、袋は開けないようにしてください。</p> <p>Q2.では、各項目についてあっていると思うものに「○」、間違っていると思うものに「×」を書き込んでください。</p> <p>Q3.では、漂着ごみを減らすために、ごみを出す人や私たちができることを考えて、書き出してもらいます。</p> <p>ワークシートをしてもらう時間は20分です。その後、Q1とQ3は皆さんから発表してもらいますので、発表者も決めてください。</p> <p>では、始めてください。</p> <p>※10分前、5分前に、残り時間をアナウンスする。</p>	<p>■指導員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート2「漂着ごみ博士になろう！」1枚／グループ</li> </ul>
<p><b>まとめ</b> 20分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 漂着ごみの発生原因、影響を理解する。</li> <li>● 発生抑制の重要性に気づき、日常生活での行動が大切であることを理解する。</li> </ul>	<p>それでは時間になりましたので、皆さんから発表してもらいます。</p> <p style="text-align: center;">=====</p> <p>Q1.の発表は、森林から海へ順に、1地点につき1グループに発表させる。各地点について「何が」「どのように発生したか」を発表させる。具体的なごみが分かりにくい場合は、可能な範囲で、袋の中のごみを全員で確認する。グループが発表を終えるごとに拍手を促す。</p> <p>次に、Q2ですが、私から正解を伝えます。</p> <p>【生きものへの影響】</p> <p>この中で、×のものは、「元気になる」だけです。それ以外は、すべて○です。ウミドリやカメは、プラスチックごみを間違えて食べてしまうことがあります。また、この写真やワークシートのイラストにあるように、ウミドリなどの生きものは、釣り糸に絡まると、動けなくな</p>	<p>■指導員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真教材 1セット</li> <li>／グループ</li> <li>・補助教材</li> </ul>

	<p>ります。一方で、ヤドカリは、捨てられたプラスチックキャップを貝などの代わりに棲みかになってしまうことがあります。答えとしては○ですが、これは本来の生き方ではありませんね。</p> <p><b>【観光・レジャーへの影響】</b></p> <p>この中では全てが○になります。この写真のように、ごみが多い海岸には、みんな遊びに行きたいと思いませんよね。また、海のごみを拾ったり、集めたり、処理するには、たくさんお金がかかります。また、一方では、貝殻や、きれいな形の木の枝などありませんでしたか。貝殻拾いなどの遊び道具にもなります。こう考えると、漂着物が全部ごみという訳ではありませんね。砂浜に落ちているガラスやプラスチックの破片で、ケガをすることもあります。</p> <p><b>【漁業への影響】</b></p> <p>この中で、×に成り得るものは、「高く売れるごみがとれる」だけです。もしかしたら高価なものが落ちていることもあるかもしれませんが○も間違いではありません。だけど、やはりほとんどはごみですよ。それ以外は、すべて○です。この写真のように、こんなに海にごみが漂っていたら、ごみが漁師さんの使う網にひっかかって破ったり、海の底にごみがたまって、船を動けなくしたり、細くなったプラスチック片が、養殖しているのりに混ざることもあります。</p> <p>Q3 は各グループの考えたことを発表させる。模範解答の中から、グループ発表で挙がらなかったものを紹介する。</p> <p style="text-align: center;">=====</p> <p>(まとめ)</p> <p>海岸には色々なものが落ちていることがわかりました。その原因は、漁業や釣りなど海でたものもありましたが、みんなが生活する家や街、そして田畑や工場から出たごみが、川をつたって、海に流れついたものが多かったことに気づきました。</p> <p>今日、一番皆さんに伝えなかったことは、水の流れを通じて、海岸と皆さんの地域はつながっているということです。</p> <p>そして、それらのごみは、カメやウミドリや魚など、海にすんでいる生きものを困らせることもあります。また、海水浴にくる人たちや、海で仕事をする観光に関わる人や漁師さんを困らせてしまいます。</p> <p>私たちが、日頃からポイ捨てをしないように気をつけたり、ごみは、ルールを守って、決められた日に決められた場所にだすことなど</p>	
--	--	--

		<p>は、すぐにできることで、漂着ごみを減らすことにつながります。そして、ごみの清掃活動に参加することも、大事なことです。ごみ清掃は、海岸だけでなく、河川や街（沿道）でも行われています。どこで参加しても、海は、山や川とつながっているので、海岸のごみが減ります。皆さんの住まいの近くでそういう活動が行われていたら、ぜひ参加してください。今日、ごみを拾ってきれいになった海岸を見て、気持ち良かったのではないのでしょうか。ごみ拾いは気持ちが良くなる活動です。</p> <p>さらに、ごみがでないような社会をつくること、例えば、ごみにならない素材をつくったり、いらぬものは買わない・貰わないことも大切なことです。</p> <p>そして、海岸にたくさんのごみが落ちていることを、家族や友達に伝えることもとても大事なことです。これから補助教材を配布しますので、それを持って帰って、家族や友人に漂着ごみの問題を教えてあげてください。また、補助教材にホームページのアドレスが書いてあります。家や学校などでインターネットができる場合は、漂着物クイズができますので、ぜひチャレンジしてください。</p> <p>それでは、これで「海岸には何があるかな？探してみよう！」を終わります。本日は、ありがとうございました。</p>	
--	--	--	--

以上